

(2024年8月20日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎 英子/委員長 池田 浩子

今回は、6月30日に行われた第2回痛覚変調性疼痛研究会について大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科の島田 明子先生、明海大学歯学部病態診断治療学講座歯科麻酔学分野の大野 由夏先生、日野市立病院歯科口腔外科の池田浩子先生に報告していただきます。

第2回痛覚変調性疼痛研究会参加報告

日野市立病院歯科口腔外科・静岡市立清水病院口腔外科 池田 浩子

2024年6月30日(日)に、国立オリンピック記念青少年総合センターにて第2回痛覚変調性疼痛研究会が「痛覚変調性疼痛を患者さんを護るための用語にする為に」というテーマのもと行われた。本研究会は今回で2回目であるが、会場は満員でありWeb参加を含めると450名参加があったとのことで、痛み治療に携わる医療者の「痛覚変調性疼痛」という用語に対する関心度の高さがうかがえた。会長である牛田 享宏先生(愛知医科大学医学部疼痛医学講座/疼痛緩和外科・いたみセンター)の開会の辞、Dr.Eva Kosek(カロリンスカ研究所・スウェーデン)からのビデオメッセージに始まり、メイン会場では特別講演・演題・シンポジウム、ポスター会場では一般演題の発表があり、13時から17時という短い時間ではあったが、盛り沢山の内容であった。

今回は口腔顔面痛学会の理事でもある二人の若き女性教授の島田 明子先生(大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科)、大野 由夏先生(明海大学歯学部病態診断治療学講座歯科麻酔学分野)からご寄稿いただいたものを中心に報告する。

【特別講演】(報告: 島田 明子)

演者: 大阪大学医学系研究科神経細胞生物学 島田 昌一先生「不快情動に係わる脳領域が関与する疼痛と運動や経験が脳に与える影響---マウスモデルを用いた解析---

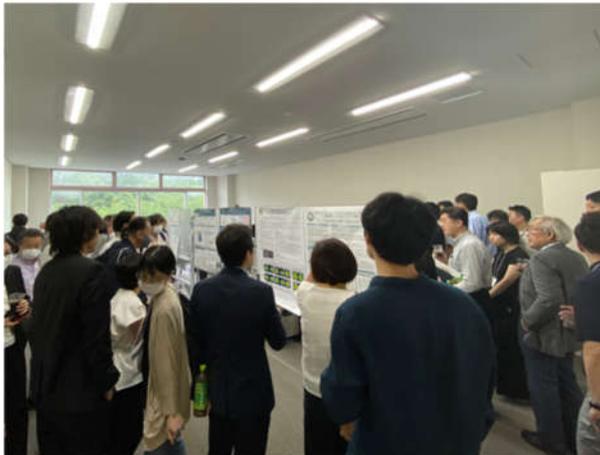
演者: 愛知医科大学医学部学際的痛みセンター 西原 真理先生『「痛覚変調性疼痛」によって私達の臨床は変わるだろうか?—その評価と臨床への活かし方』

特別講演1は島田 昌一先生(大阪大学医学系研究科神経細胞生物学)が「不快情動に係わる脳領域が関与する疼痛と運動や経験が脳に与える影響---マウスモデルを用いた解析---

と題して、運動により脳内のセロトニンが増加し、5-HT₃受容体を介して疼痛を緩和する効果が確認され、前帯状回がこの鎮痛効果に密接に関与していることも明らかになったという研究結果を示された。

特別講演2では、西原 真理先生(愛知医科大学医学部学際的痛みセンター)が『「痛覚変調性疼痛」によって私達の臨床は変わるだろうか?—その評価と臨床への活かし方』と題して、痛覚変調性疼痛の考え方について疾患分類とメカニズムの観点から解説された。2018年開催のIASP(Boston, USA)にて、Eva Kosek先生(Karolinska Institutet, Sweden)が『Nociplastic Pain - The Third Mechanistic Descriptor』のご講演で“Nociplastic pain”のイントロダクションを行い、私自身も含め、聴衆の多くは当初思考が混乱したのを記憶している。西原先生のご講演の中で、侵害受容性疼痛でも神経障害性疼痛でもない第3の疼痛である痛覚変調性疼痛を「脳が作り出した痛み」と表現された。ただし、その代表と言われる線維筋痛症患者にみられる疼痛も末梢の関与は無視できず、混合性の要素がある可能性を示唆された。慢性疼痛について、3つの疼痛メカニズムの要素のどの色合いが強いかを検討し、治療計画を立て、再評価する重要性を述べられ、歯科医師として、疼痛を訴える患者を診る力を養う必要性を強く感じた。

特別講演後の20分間の休憩時間に、ポスター会場において一般演題10演題の発表が行われた。発表者は参加者からの質問に対して説明や議論を繰り広げ、会場内は活気と熱気に満ち溢れていた。また、ポスター会場内で、フリードリンクが提供され、参加者同士の意見交換の場となっていた。



ポスター会場の様子

【演題】（報告：池田 浩子）

演者：九州大学病院心療内科 安野 広三先生「愛着スタイルや解離症状に注目した線維筋痛症の類型化の試みとその臨床的特徴」

演者：順天堂東京江東高齢者医療センター麻酔科・ペインクリニック 山口 敬介先生「高齢者の慢性疼痛と痛覚変調性疼痛」

演者：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 林 和寛先生「外傷性頸部症候群の全国全例医療費調査—外力と医療費は相関しない—」

安野先生は「愛着スタイルや解離症状に注目した線維筋痛症の類型化の試みとその臨床的特徴」と題し、線維筋痛症患者を安定型愛着群、拒絶型愛着群、恐れ型愛着群、解離群の4群に分けることにより、心理特性の把握、心理社会的介入の方針決定、予後予測における有用性について話された。

山口先生は「高齢者の慢性疼痛と痛覚変調性疼痛」と題し、加齢による老化サイクルの形成、慢性炎症による末梢性感作・中枢性感作、下行性疼痛抑制系の機能不全、マイクログリアの活性化、認知・情緒的因子（特に抑うつ、破局的思考）について話された。

林先生は「外傷性頸部症候群の全国全例医療費調査—外力と医療費は相関しない—」と題し、交通事故による外傷性頸部症候群患者の医療費総額においては、事故による外力の程度は小さく、社会的因子が関連していたという調査結果より、外傷性頸部症候群患者における痛覚変調性疼痛関与の可能性について話された。

【シンポジウム】（報告：大野 由夏）

座長：順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座 井関 雅子先生、大阪行岡医療大学 医療学部 三木 健司先生

演者：東京慈恵会医科大学・痛み脳科学センター 加藤 総夫先生「第3の痛みの機構『痛覚変調性疼痛』が開いた『痛み』への扉 —侵害受容主義痛み観から脳中心主義的痛み観へのパラダイムシフト」

演者：横浜市立大学研究・産学連携推進センター 宮崎 智之先生「AMPA 受容体密度を指標とした慢性疼痛患者における分子基盤の解明」

演者：高知大学整形外科 泉 仁先生「病態別の慢性痛患者における定量的感覚検査」

座長のご予定であった会長牛田先生が残念ながらご不在のため、井関先生と三木先生の座長で開始された。

はじめに加藤先生から「第3の痛みの機構『痛覚変調性疼痛』が開いた『痛み』への扉 —侵害受容主義痛

み観から脳中心主義的痛み観へのパラダイムシフト」と題し、痛覚変調性疼痛に関与する主な脳内ネットワークとして腕傍核―扁桃体系についてご紹介いただいた。

続いて宮崎先生から「AMPA 受容体密度を指標とした慢性疼痛患者における分子基盤の解明」と題し、ヒト脳内で AMPA 受容体を定量できる AMPA-PET 技術を用いた臨床研究および AMPA-PET が疼痛疾患バイオマーカーとして有効となる可能性についてご講演頂いた。

最後に泉先生から「病態別の慢性疼痛患者における定量的感覚検査」と題し、簡便な定量的感覚検査法の紹介と痛覚変調性疼痛評価への応用の可能性をご提示頂いた。

その後の総合討論では LINE オープンチャットを利用し、現地参加者およびウェブ参加者から質問を募り自由闊達な議論が行われた。最新の知見を得ることもでき、会長牛田先生の今大会の目標「痛覚変調性疼痛についての幅広い考えの場となり、よりよい治療に結びつく機会となれば幸いです」というコンセプトどおりの、素晴らしいシンポジウムであった。

最後に三木先生から今後のケーススタディー（困った症例などをみんなで解決しましょう）や次回第3回痛覚変調性疼痛研究会（Pain Week 2025 年 12 月 4~6 日東京ビックサイト）の予定をご案内いただいた。引き続き国立オリンピック青少年総合センター内で行われた懇親会では、代々木の森と新宿の景色を楽しみながら演者の先生方、多職種の先生方と懇親会ならではのざっくばらんな雰囲気の中意見交換を行うことができ、次回参加がとても楽しみとなった。

大会 HP :

<https://sites.google.com/view/nociplstic-paine20240630/%E7%AC%AC%E5%9B%9E%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BC%9A2024%E5%B9%B4?authuser=0>



シンポジウム 加藤先生 (大会 HP より)



総合ディスカッション



次回予告 三木先生



懇親会

【島田 明子先生のプロフィール】

【略歴】

- 2003年 長崎大学歯学部卒業
- 2007年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了（博士（歯学））
長崎大学歯学部附属病院補綴治療室 医員
- 2010年 Visiting postdoctoral researcher, Section of Orofacial Pain and Jaw Function,
Department of Dentistry, Aarhus University, Denmark
- 2012年 Ph.D. fellow, Section of Orofacial Pain and Jaw Function, Department of
Dentistry, Aarhus University, Denmark
- 2015年 Ph.D. in Medicine, Department of Dentistry, HEALTH, Aarhus University, Denmark 博士課程修了
Post.doc, Department of Dental Medicine, Karolinska Institutet, Sweden
Post.doc, Section of Orofacial Pain and Jaw Function, Department of Dentistry, Faculty of Health,
Aarhus University, Denmark
- 2017年 大阪歯科大学病院口腔リハビリテーション科 講師
- 2019年 大阪歯科大学高齢者歯科学講座 講師
- 2021年 長崎大学生命医科学域（歯学系）歯科補綴学分野 准教授
- 2023年 大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科 教授



主な所属学会・専門医

日本口腔顔面痛学会 理事・評議員

日本日本顎口腔機能学会 理事

日本補綴歯科学会 代議員

日本口腔リハビリテーション学会 代議員

DC/TMD center in Japan Reference Standard Examiner

日本顎関節学会, International Association for Dental Research (IADR) (国際歯科学会), International Association for the Study of Pain (IASP) (国際疼痛学会) ほか

【大野 由夏先生のプロフィール】

【略歴】

- 2003年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 2007年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科麻酔・生体管理学分野博士課程修了（博士（歯学））
- 2009年 Center for Sensory-Motor Interaction (SMI), Aalborg University,
Denmark 留学
- 2011年 Aalborg University, Doctoral School in Medicine, Biomedical Science and
Technology 博士課程修了 (PhD in Clinical Science)
- 2013年 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 新薬審査部 審査専門員
- 2015年 明海大学歯学部病態診断治療学講座歯科麻酔学分野 准教授
- 2024年 同 教授



主な所属学会・専門医

日本口腔顔面痛学会 専門医・暫定指導医・理事
日本歯科麻酔学会 認定医・専門医・指導医・理事
日本ペインクリニック学会 特任評議員
日本いたみ財団 いたみ専門医・いたみマネージャー
日本疼痛学会, 日本慢性疼痛学会, 日本麻酔科学会
International Association for the Study of Pain (IASP) (国際疼痛学会) ほか

【池田 浩子先生のプロフィール】

【略歴】

1998年 東京歯科大学歯学部卒業
1998年～2000年 慶應義塾大学医学部（歯科・口腔外科学教室）研修医
2000年 国民健康保険まごころ病院 歯科（出向）
2000年 国立療養所東埼玉病院 歯科（出向）
2001年 東京都立多摩老人医療センター 歯科（出向）
2003年～2008年 慶應義塾大学医学部（歯科・口腔外科学教室）助教
2008年～2013年 神奈川歯科大学非常勤講師
2008年～2019年 慶應義塾大学病院（歯科・口腔外科学教室）非常勤歯科医師
2014年～ 静岡市立清水病院口腔外科非常勤歯科医師（口腔顔面痛/顎関節症外来）
2017年～ 日野市立病院歯科口腔外科非常勤歯科医師（口腔顔面痛/顎関節症外来）



主な所属学会・専門医

日本口腔顔面痛学会 指導医・専門医・評議員
日本補綴歯科学会 専門医
日本老年歯科医学会 認定医
一般財団法人日本いたみ財団 いたみ専門医
日本顎関節学会, 日本頭痛学会, 日本有病者歯科医療学会

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内
TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp